

にほんからてしょうとうれんめい どうじょうくんかいせつ
日本空手松 涛連盟 道場 訓解説

ひとつ じんかくかんせい つとむ
一、人格完成に努むること

からてどう しゆぎよう おこな もくひよう いちばんたいせつ
空手道の修行を行うものにとって目標として一番大切なこと
である。日々の厳しい稽古の中でお互いの人格を尊重し、人間性
こうじょうはつてん どりよく ひつよう だいにじょういか どう
の向上発展に努力することが必要である。第二条以下の道
じょうくん だいいちじょう もくひようたつせい ほうほう
場訓はすべて第一条の目標達成の方法である。

ひとつ まこと みち まも
一、誠の道を守ること

まこと まごころ くち かなら と
誠とは真心であり、ひとたび口にしたことは必ずやり遂げる、これ
まこと みち い じつこう うそ
が誠の道なのである。言ったことは実行する、嘘をつかない、という
ひと しんらい たか こんぼん
ことが人からの信頼を高める根本である。

ひとつ どりよく せいしん やしな
一、努力の精神を養うこと

なにごと どりよく せいこう りくつ
何事も努力なくしては成功することはできない。このことは理屈でわ
かっていてもなかなか実行できないものである。そこで努力するために
せいしん すなわ ところ けつい ひつよう けつい
はまず精神、即ち心から決意する必要がある。そして決意したこ
どりよく たむ なにごと
とに努力して立ち向かっていく、そうでなくては何事もなしえない。

ひとつ れいぎ おも
一、礼儀を重んずること

れいぎ もつと にんげんせい ちつじよ こんぽん あいて
礼儀とは、最も人間性のあらわれであり、秩序の根本である。相手
そんけい れい どうぜん じつ れいぎ じぶんじしん
を尊敬して礼をすることも当然でありうるが、実は礼儀は自分自身
のためにあるということを知らなければならない。初対面で相手に対し
どうどう ていちょう れい あいて かのう しんらい たか
て、堂々としかも丁重に礼をすれば、相手は感応して信頼を高
めることができる。人間の真価は礼節にあらわれる。決しておろそか
にすべきではない。

ひとつ けつき ゆう いまし
一、血気の勇を戒むること

にんげん わ まま こころ しはい
人間はとかく我が儘な心に支配される。ちょっとしたことにでもすぐ
はら た あいて つほんにん いさ ふ ま
カーッとになって腹を立てる。相手に突っかかる。本人は勇ましく振る舞
っているつもりかもしれないが、端から見ると滑稽なものである。空手道
しゆぎよう はげ ささい はら た からてどう
の修行に励むものは、些細なことですぐ腹を立てるようでは、空手道
な は はら た とき わら こころ
の名に恥じる。腹が立った時には、にっこり笑えるほどの心のゆとり
も たいせつ
を持つことが大切である。